

2019年9月7日(土)10時30分～17時
於：産業技術総合研究所臨海副都心センター
日本子ども安全学会第6回大会

abstract
基調講演—発表要旨—

人の知恵と人工知能で作る子どもの傷害予防

西田佳史 (東京工業大学 工学院機械系)

人生100年時代の到来にともない、様々な生活機能を持った人が共存していくダイバーシティ社会の構築が求められている。子どもの場合、心身機能の発達過程にあり、子どもの視点にたったデザインは容易ではない。日々新たなサービスやプロダクトが開発されることに伴って、新たな事故も同時に開発されることになる。一方で、近年、利用可能になっている人工知能技術やクラウド計算環境によって、公衆衛生と人工知能を融合させた新しい傷害予防のアプローチが提供されつつある。本講演では、発達過程にある子どもを「安全に、活動的に、健康的に」育てる方法として、人と人工知能が互いの特性を活かして協業する可能性について述べる。

子どもの事故（傷害）予防—地域主体の取組 —長崎県大村市「子ども安全管理士講座」の実践から

出口貴美子 出口小児科医院長 Love&Safety おおむら代表

長崎県大村市を活動拠点として行なっているNPO法人;Love & Safetyおおむらのこれまでの歩みについてご紹介する。2011年に発足したこのNPO法人の特徴は、子どもに関わる主要機関である医療、教育、警察、消防が連携を取り、産業技術総合研究所との研究基盤のある中で、科学的に事故予防の取組を行なっている点である。さらに大村市と協定を結び、行政の理解や支援、活動資金を得ている。これまで様々な取組を行なっているが、2017年4月からは、大村市と共催で、資格認定制度である「教育・保育施設等における子ども安全管理士講座」を開講した。今後は資格取得者が、それぞれの施設で安全な環境を獲得するためのリーダー役を担う。子どもの安全に関する地域主体の取組を考える事例として大村市の実践を提案する。

保育の重大事故をなくすネットワーク」の設立と活動について

平沼 博将
大阪電気通信大学教授「保育の重大事故をなくすネットワーク」共同代表

本来、子どもたちの発達を保障すべき教育・保育施設等で、2004年～2018年の15年間に少なくとも207人の子どもたちが死亡している。また、2018年に教育・保育施設等で発生した「重大事故」(死亡事故9件、意識不明13件を含む)は1641件にも上った。

2019年3月、これまで活動を共にしてきた保育事故の遺族と専門家を中心に「保育の重大事故をなくすネットワーク」を設立した。保育の安全対策や制度改善を国や自治体に要請していくとともに、ネットワークとしても保育中の重大事故をなくし、子どもの命を守るための様々な取組を行っていききたい。

子
ど
も
安
全
学
会
基
調
講
演



日本子ども安全学会第6回大会

実践・研究報告-*abstract*発表要旨-

子どもの脳振盪

国立スポーツ科学センター 研究員 大伴茉奈

脳振盪は誰にでも発生するケガであり、どのような状況でも注意すべき危険なケガである。では、脳振盪が発生してしまったら何をしたらいいのか、どのように対応すべきなのか、何が危険なのか、ご存知だろうか？ 大人の役割は子どもを危険から守ること。子どもは大人のミニチュアではなく、子どもには子どもの特徴がある。そのため、子どもに関わる全ての人に知っていただきたい、子どもの脳振盪に関する最新の知見について一緒に学びましょう。

学校スポーツの危険から子どもを守る－熱中症対策

早稲田大学スポーツ科学学術院 細川由梨

熱中症は命に危険を及ぼす恐れのある「自然災害」であり、特に活動中の熱中症(労作性熱中症)の場合は、一見健康で体力のある人であっても条件が揃えば罹患の可能性がある。そのため正しい応急処置を知るだけでなく、予防を徹底することが重要である。熱中症予防の第一歩は熱中症のリスク要因を知り、改善や修正が可能なりリスク因子(体調管理・運動の内容・水分補給など)と、変更が難しいリスク因子(環境温度・立地・年齢)を知ることである。本講演では学校現場で子供達を熱中症から守るためにできる実践例を紹介する。

教育行政と学校安全に関する一考察

一部活動指導者問題に対する行政対応に着目して－

劉 小麗 名古屋大学大学院生

2012年の大阪桜宮高校事件以降、教育行政側が体罰や暴言など指導者問題にかかわる対策に取り組む中で、指導者問題による部活動事故が後絶たなかった。そうした部活動事故を根絶するため、これまでの行政対策・取り組みを改めて考察し、いかなる問題点・限界性があるのかを明らかにする必要がある。その際、①抑制面における法的禁止対策と、②改善面における適切な指導体制整備策、二つの方面から考察を行う。

子ども安全管理士の活動報告

日本ベビーサイン協会認定講師・子ども安全管理士 菊地真奈美
保育園施設長(フロンティアキッズ)・子ども安全管理士 伊藤由子

社会で子どもの事故予防に関する理解を深める為に、子ども安全管理士講座で学んだ内容をベビーサイン教室でどのように伝えれば良いか？ご家族に関心を持っていただき生活の中で活かして頂く為には、注意を促すだけではなく、子育て世代に関心の高い子どもの発達に伴う行動とその意味に関連付け、月齢毎に多い事故事例と保育現場での事故予防の実践例をお伝えいただくために、保育士でもある子ども安全管理士とコラボ講座について報告する。

子ども安全セミナー実施報告

吉川豊 一般社団法人吉川慎之介記念基金理事

2019年7月7日に東京(千代田区)、7月20日に愛媛(西条市)において、水辺の活動と安全を考へる一子ども安全セミナーを開催した。東京セミナーでは、溺水に特化した心肺蘇生法の実習を実施。愛媛県西条市では、2012年7月20日に発生したお泊り保育中の水難事故の教訓をいかす取り組みとして、西条市と共催で実施した。子ども安全セミナーから、保育・学校管理下で発生した事故の教訓の活かし方と、事後対応の可能性について考える。